

ユネスコ世界平和作文コンクールに5年生・6年生が応募しました。(冬休みの課題)作品の内容は、自分のたちの身近な環境問題から地球規模の問題まで視野の広い内容です。題からも子どもたちの成長の様子が伝わってきます。

子どもたちの題を下記に紹介します。

道徳の大切さ(5年 男子)

身近な文房具と学校そして平和とは(5年 男子)

日本は平和な国(5年 女子)

生きられる幸せ(5年 男子)

みんなで助け合う(5年 男子)

地球の文化をいつまでも残そう(5年 女子)

自然と環境(5年 男子)

大切なものを考える(5年 女子)

幸せとは(5年 女子)

自然(5年 男子)

生きる幸せ(5年 男子)

これからもいっしょ(5年 男子)

平和の事(5年 男子)

再利用する紙(5年 女子)

自然さい害のおそろしさ(5年 男子)

平和とは家族という支えだ(5年 女子)

ぼくらの学校(5年 男子)

やさしい気持ちが平和をつくる(5年 男子)

自分の平和(6年 男子)

世界の人々と共に生きるために(6年 女子)

小さなことから大きなことに(6年 女子)

小さな事から(6年 男子)

平和のために(6年 男子)

日本の文化(6年 男子)

平和とはなにか(6年 男子)

※どの作文も学校で学んだことをもとに、世の中をしっかりと見据え、自分にできることを書いた内容でした。全員の作品を紹介したいのですが紙面の関係上、今回は、6年生 男子の作文を紹介します。現在起きている戦争や平和について、今の当たり前の生活の視点でよく考えた作品です。

平和のために 6年 男子

ぼくは、今まで戦争がないこと、三食ご飯が食べられること、毎日布団で眠れることが当たり前だと思っていました。だけど、この当たり前だと思っていたことをくつがえすことが起こりました。

戦争の本を読んだときに、ぼくと同じくらいの年れいの子どもがじゅうを持って戦っていたり地雷があるかどうか確かめるために先に歩かされたりしているということが書いてあったのです。そういう国があることは、わかっていたのですが、その本を通して、ぼくの平和に関する考えが深まった気がします。食べ物もまともに食べられず命を落とす国もあるのです。日本と違ってなんという環境でしょう。更には、病気にかかっても病院がない、薬がない、医者がないという国々もあったのです。ぼくは衝撃を受けました。

そこで、どうすればそのような国がなくなって世界が平和になるのかと考えました。世界の人々が思いやりの心を持っていれば戦争が起こらず平和なのではないかと考えました。でも、口では簡単に言えることでも実際には難しいことだと思います。～略～一人一人の力は小さくてもぼくにもできることがあると思います。まずは、食べ物を残さず食べることです。ほんの少しのことです。取るに足らないことです。でも、そのことによって無駄な食べ物がなくなります。そうすれば、食べ物が足りない国に少しでも行きわたるかも知れません。～略～他にぼくにできることはないか考えました。電気の節約です。電気のエネルギーの元は原油です。日本が使う原油の量が少なくなればその原油が貧しい国に回るのではないのでしょうか。電気をこまめに消すこと、使っていないコンセントをぬくこと、暖房機を使いすぎないことなどがぼくにできることだと思います。

この身近なことが世界の平和につながればいいなと思います。そして、いつかは世界の人々が幸せに暮らせるようになればいいなあと思います。今の気持ちをいつまでも忘れないようにしていきたいと思っています。